

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第260号 (2026.2.8-2026.2.15)

参加者: クイスケ、ゆうたま、田中美穂角、カオルル、しまねこくん、松本清
展、汐田大輝、なやわい、汐田大輝、西脇祥貴、xxodanapple、水
の眠り、Nichttrübenheit、七澤銀河、月階柚、あつみのマルコ、銀星
星郎、天然石アクセサリーetc.、ふくろうたかこ、宮坂愛哲、片羽
雲雀、舞風、奏かなで、霧雨魔理沙、山田真佐明、砂原妙々、笛地
静恵、空野つみき、白水ま衣、砂のような、佐井杜有、鈴木正巳、石
原とつき、雨声、桑原雅、もみじ寝子、鮎田わさび、青海波、ナル、
べろぼっこ(のろわれたべろ)、岡村知昭、石川聡、つきの、さかな、
東ころろ、非常口ドット、胡椒黒、不思議な話のアイン、まどけい、
織部ゆい、季川詩音、雪夜彗星、山羊の頭、山代甘倫、菊池洋勝
sao、スタ35、白井沙漠、麦ちひろ、水彩、安藤蜜豆、栗井ゆず
る、朝暮ミナミ、二明十種、よもやまさか、月波与生(六五五)

◆川柳・俳句

どこまでも馬を安全に死なせてしまふ クイスケ
三度目のいないで凍りつく クイスケ
内科医を興味本位に傷つける 汐田大輝
歌わない者を沈める石油缶 汐田大輝
凍夜の浣腸はいつも最後まで 菊池洋勝
竹馬だましだましとさまさまあねさん 石原とつき
オマエモナーオマエモナーと夜凍る しまねこくん
背鰭まであるが鶯餅なのか しまねこくん
絶交の上書きをしに来る雪崩 しまねこくん
地動説一人唱へて夜凍る しまねこくん
一般のひとの怒りは雪ですか 胡椒黒

霜降りるどれかがきみの指だろう 黒胡椒
海苔搔くやシンドバッドの腰つきで カオルル
ニライカナイへの道は真っ直ぐ 青海波
雑音に挟まれている少年誌 空野つみき
平常心はおまけのようなものだから 白水ま衣
故郷は月面都市の端のほう 宮坂変哲
今夜から冷凍保存するのび太 汐田大輝
凍る夜は静香の脈に触れてみる 汐田大輝
目に染みる泣きたい夜の欠けた月 なさわい
卵とじうどんの熱き春の闇 カオルル
味噌床に三年漬けている凍夜 佐井杜有
凍結したねるねるねるねを飾る アイン

*

にんげんをかえしツクヨミ秋刀魚焼く ゆうたま
立春や露店の古着買ふ女 田中美蟲角
凍鶴や群れを離れて夜をひとり 松本清展
義理チョコ塚の守り人 Nichtraucherchen
ほどなく羽根が咲むと知る。 天然石アクセサリーkit's
サボテン枯らすテクニシャン ふくろうたかこ
薄霞チョコで包んだ傷とキス 片羽雲雀
トラウマに 苦しめられる日は続く 霧雨魔理沙
かぎ裂きの試写室は中島みゆき 西脇祥貴
あらずじの裏道を行き凍みる夜 山田真佐明
春雪や穂高の川に鱒の影 鈴木正巳
夜のいてつくたてつく姉の亜種と握手 石原とつき
おきぬけの 君を抱きよせ ひとしきり 桑原雛
違います下痢は象ではなくて僕 岡村知昭
問答無用モン・ドール 石川聡
会えなくて今日はさみしいちよこれいと 東こころ
別れとはマフラーが長くなること 季川詩音
ぬくもりと静けさの雪に探す夢 雪夜彗星

穴バケツ 水が入っても 穴から流れる 山代甘倫
冬薔薇やがて一人になる二人 akko

デジタルの時代にあえて詠む凍夜 まどけい

青星が光れ光れと急ぎ立てる 水彩

残雪に凌辱されてゆく正気 安藤 蜜豆

春だっけと呼ばれて二月は透明 朝暮ミナミ

たましひの碎けし音と春の雪 三明十種

*

真つ白はリバーシブルなヤーレンズ 月波与生

◆ 短歌

もう私、用無しなんだと思います ピエロの仮面は笑って
います つきのさかな

凍る夜は音も涙も凍てついてちりり抗う心臓を抱く もみ
じ寝子

各々が氷砂糖を持ち寄ってフロリダと消ゆ梅酒の夜宴 鮎

田わさび

*

聞いてよとか細く放つ言の葉がストウブの香の中空に浮く

xxxoxdarapelldap

焦点の合わせ目でみる者だけにオールを預け企画書に乗る

水の眠り

爪先が凍り付くよな寂しさはこの心臓の渴きのせいだゝ

七澤銀河

興醒め… 自らは凸凹踊る火星人ではないと知る夢 月階

柚

焦げつきし鍋の底より剥がれずにあなたを待てば夜だけが

煮える あづみのマルコ

できるだけ手遅れにしようビックリマンチョコを買ったり
ワイン飲んだり 銀星星郎

無いものを欲しがるとてそんなにさ 駄目かなそうねそ
れでも私 舞風奏

風花の消ゆる速さを知らながらなお差し出せる心を選ぶ
砂原妙々

田周率が循環小数となる夢を見た朝の町の周縁 笛地静恵
落ちた首はつぼらかしにしておいた凍夜はぼくを解離させ
てく 砂のような

出会いありてテーブルに着く偶然性小さな悪と小さな戦略
雨声

晴れの海こんな夜でも穏やかで ニライカナイへの道は真
っ直ぐ 青海波

一人きり無為に過して迎う夜湯船で抱く寄る辺なき足
ナル

眩しく光る あの星がきみだったら 良いのに また会える
から ぺろぽっこ

凍空にいつぱいの泡静止した街で夜更けに孤独を冷やす
非常口ドット

これだけは手放せなくて透明なハコだったのに色が被さる
織部ゆい

痛みは、ね MAXIO のらになった 長い旅だね飛行したいよ
山羊の頭

残雪を踏みしめなおす足の下 ひび割れながら春は息する
麦ちひろ

つらぬいて岸に広がる海鳴りを吹きすぎる風今日はどこへ
と 栗井ゆずる

◆詩・短文

夜中でも太陽が輝いて
輝く白銀の大地

私の恋を

祝福してる気持ちができるわ（スタ 6251）

眼を閉じて横たわっている
さみしく息をしている

ひたひたと水が浸食してくる音だけができる

昔に帰りたいとは思わない
あの人になりたいとは思わない

ただ今が耐えられない
わたしはわたし以外の形になれない
ノックして通り過ぎていく人たちを
引き留めることはできない（白井沙漠）

◆作品評から

絶交の上書きをしに来る雪崩 しまねこくん
～大切なことだからね。（よもやまさか）

円周率が循環小数となる夢を見た朝の町の周縁 笛地静恵
～循環小数、懐かしい言葉ですね。これは悪夢なのでしょう
うか。しかも円周率とは。きっと数学者同士が議論して

たのではないでしようか。「循環する」、「いや、するわけないだろ」って。(季川詩首)

究極の受け身で生きてる君が僕を好きなら好きだし嫌いなら嫌い　つきのさかな

「君が僕を好きなら……」から面白いがその方が楽だし来傷つかない、で恋愛受け身人間が増える。結論先送り、ということではあるのだけど。(月波与生)

夜に見る微笑みの国の自殺率　クイスケ

「総理になった高市早苗はよく笑う。面白くない時でもまずは笑顔から入る。作り笑いだろうが笑顔は人を安心させる。一億総笑顔。これからこの国は微笑みの国になるだろう。(月波与生)

睫毛しか青信号に気づかない　蔭一郎

「こういう句を書けるひとは繊細なんだろうと思う。睫毛の気持ちとか考えたこともないわたし。(月波与生)

春近し長き手足の小栗旬　カオルル

「固有名詞を入れる句は注文相撲みたいなものハマれば気持ちいいがズレるとどうしようもない。小栗旬はハマっていると思う。(月波与生)